

## 重点施策1 特色ある学校づくりと教職員の資質・能力の向上

### 【施策方針】

- 学校の教育目標の明確化と学校評価システムの改善
- ブロック別研究推進体制等を生かした幼（保）・小・中の交流と連携の推進
- 「三層の情報環流方式」\*による情報共有と家庭・地域社会の教育力を活用した児童生徒の健全育成
- 校内研修の充実と人間的魅力に富む教職員の育成

### 【実施状況】

#### （1）主な施策・事業

- ① 活力と潤いに満ちた特色ある学校づくり
- ② 幼（保）・小・中の効果的な連携
- ③ 家庭・地域社会との連携
- ④ 現職教育の充実

#### （2）施策・事業の実施状況

##### ① 活力と潤いに満ちた特色ある学校づくり

教育計画及びグランドデザインに明確な教育目標を掲げ、具体的な方策により特色ある学校づくりに努めた。グランドデザインについては、年度途中であっても見直し・改善を図るよう指示した。年2回の学校訪問及び学校視察を通して、その達成状況を確認し、教職員とともに成果と課題を確認した。

また、学校組織マネジメントの視点に立った学校経営と目標管理制度を導入した経営の在り方について助言を行った。さらに、各学校の自己評価や学校関係者評価を通して、特色ある実践について検証し、評価の報告を求めた。その際、学校の取組が適切に評価されるよう、評価項目の見直しを含めた改善を図ることや、自校の目標管理制度の実践と相応した評価となるよう助言した。

##### ② 幼（保）・小・中の効果的な連携

令和2年度末の真穴中の閉校により4ブロック体制でブロック別研究会を開催し、9年間を見通し、小中連携を研究推進の中核として、コロナ下においても様々な工夫を凝らし、学力向上対策や体験活動の充実に積極的に取り組んだ。

また、各ブロックで地域の特性や児童生徒の実態に応じ、特色ある地域活動を展開し、地域と一体となった健全育成に取り組んだ。

##### ③ 家庭・地域社会との連携

三層の情報環流方式による情報共有を基盤とし、いじめや非行の早期発見に努める。とともに、各ブロックにおける生徒指導上の諸問題について共通理解し、健全育成の充実に向けた協働体制の確立に努めた。

また、体験活動においては、各ブロック単位で、「浜っ子人材銀行」（生涯学習課発行）を参考にして地域の人材を積極的に活用した取組を行った。学校と家庭・地域社会との連携については、どの学校も会合や校報、HP等による情報発信を積極的に行い、更なる連携の強化につながる取組ができた。

#### ④ 現職教育の充実

各学校では、現職教育計画に基づき、学校不適応の解消・未然防止、授業力向上のための教科研修や、特別支援教育の視点を基盤とした生徒指導力向上を目指した事例研修や理論研修及び教職員の服務規律の確立のための研修等、様々な研修を年間通して実施した。特にGIGAスクール構想に伴うICT研修では、授業におけるICTの効果的活用方法に関する理解を深めるとともに、校内研修において、学んだ研修を他の教職員に直接伝達し、受講者一人の学びが学校全体の取組に活かされるよう工夫した。教育委員会は、研修主任会等でこの計画の実施状況について確認し指導した。

また、今年度はコロナ下でも、市教研教科部会や教科外部会について工夫を凝らし実施した。職務別研修は定期的実施し、教職員の資質・能力の向上について共通理解を図った。

校務支援システムについては、小・中学校の通信簿・指導要録の電子化も10年目となり、教職員のリテラシーも向上している。ICTの活用は、教職員の業務改善（働き方改革）にもつながっている。

GIGAスクール構想に伴い整備したクラウド環境を利用し、始業日や終業日の出欠状況及び感染症の発生や非常変災時の対応に係る報告業務の省力化、職員会議でのペーパーレス化等の業務改善に成果を上げている。

#### \*三層の情報環流方式

各学校、ブロック（中学校区）、市の三つのいじめ対策委員会が、相互に連携を図りながら、情報交換を積み上げ、協働して課題解決を図る本市独自の取組

#### 【事務事業点検評価委員意見】

- 令和3年度も、コロナ下において様々な活動が制限され、中止や延期にしなければならなかった部分は多かったと思われるが、そんな中で、教育委員会の迅速かつ的確な指導の下、各学校が感染防止対策を講じながら、実践された活動も多く大変なご苦労があったと拝察する。
- 教育委員会の活動を活発かつ適切に行うためには、教育行政、学校現場等の教育を取り巻く状況の把握が重要となってくる。そのため、子どもたちが安全で安心な学校生活を送れるよう、引き続き、市教研教科部会や教科外部会など教職員等の意見を聴く場に積極的に参加するとともに、本市が抱える課題に対して現状に適した有効な方針が検討できるよう、国や他の自治体における教育課題や事例の情報収集を行い、視野を広く持った教育行政の運営に努めていただきたい。
- 教育行政を取り巻く環境は多様化、複雑化しており、課題解決に向けて地域や関係機関と連携した取組が求められている中で、教育行政について広く周知する必要性が高くなってきていることから、引き続き、市のホームページや広報誌などを活用して本市の取組や対応状況等の情報発信の充実を図り、一層の透明性の確保に努めていただきたい。
- 学校には、教育委員会との情報交換を綿密に行い、家庭や地域社会から信頼を得ることが求められている。各校のグランドデザインや学校要覧には、特色ある学校づくりのための具

体的方策が明記され、校長の指導の下、独自性を発揮した教育活動が進められている。また、全ての学校が学校評価を実施し、校長のリーダーシップの下、全教職員が共に学校改善のためのマネジメントの見直しを行っている。

- すべての小・中学校でホームページ更新が大変意欲的に行われたことにより、ホームページを毎日楽しみにしている児童生徒や保護者、地域住民が増加している。コロナ下において、各校とも工夫を凝らしながら授業公開、各種行事の公開等を積極的に行い、保護者や地域社会からの信頼関係構築につなげている。特に、新型コロナウイルス感染症対策に関する対応について、速やかに家庭へ周知・依頼し、感染予防について協力を得ることができている。また、地域のよさを取り入れた交流体験、職業体験、ふるさと体験など、地域との連携による特色ある授業実践が行われている。今後、校区内の人的な資源、物的な資源を活用し、学校の実態や地域性を生かした教育活動を展開していく中で、各ブロックにおける小中連携の更なる強化を視野に入れながら学校づくりを推進していく必要がある。
- 教育委員会の指導・助言の下、各校で、授業評価システムを組織的・継続的に活用し、授業改善に努めるなど、教職員の授業力向上が図られている。また、教育理念や教育目標、経営方針を明確化し、教職員一人一人の危機管理意識を高めたり、服務規律を徹底したりする研修を継続的に実施することができている。GIGA スクール構想により、一人一台端末が整備されたが、これらを効果的に利活用することのできる教職員の育成が急がれる。情報教育主任やICT支援員を中心に研修が進められているが、教職員の活用能力の底上げがある一定レベルまで達するには、相当の積み上げが必要であり、大きな課題である。
- 今後、教職員の若年化がますます進んでいく中、県総合教育センターのキャリアアップ研修等の研修内容や成果を共有しつつ、関係機関と連携し、教育委員会が主導する研修を一層充実させる必要がある。また、GIGA スクール構想で整備された、大容量・高速通信ネットワークを効果的に活用していくことも重要である。教育委員会には、教職員一人一人の意識改革を促すとともに、誇りや情熱をもって働ける教育環境を整備し、ワーク・ライフ・バランスを実現しながら、子どもとじっくりと向き合う時間を十分に確保することによって、質の高い教育を実現するよう業務改善の推進にも取り組んでいただきたい。

#### 【自己評価】

- 学校において、子どもたちの健やかな成長、教育環境の整備・充実などのためには、家庭や地域との連携や信頼関係が不可欠である。その学校を支えるために教育委員会としては、学校との連携をこれまでどおりしっかりと行っていくことが重要と認識している。そのために、国や他自治体の教育課題や事例の収集を日ごろから怠ることなく、学校への指導に生かせるよう取り組んでいく。
- 本市の取組や対応状況について、定例教育委員会の議事録や、新型コロナウイルス感染症対応をホームページ上で定期的に発信している。また各学校を通じて、保護者へ周知する内容もある。今後も様々な手段を通して、教育委員会の取組について一層の透明性の確保に努める。
- 本市の特色である三層の情報環流方式の会議で出た意見を、年度途中であっても教育計画に取り入れ、改善していくよう指導している。その理念に沿って教育活動を展開することで、

家庭への具体的サポートへつながることもあると考えている。

- 教員免許更新講習制度が廃止となったが、教職員には学び続けることが求められている。ICTの活用を含めた教職員の指導力向上の研修についても国や県の方針に沿い、現場の声を聞きながら進めていく。